

令和7年度 第1回 総合教育会議 会議録

開催日時 令和7年4月28日（月）午後3時から午後4時25分
開催場所 美祢市役所本庁本館3階 301号会議室

出席者

篠田 洋司	市長
南 順子	教育長
金子 明美	教育長職務代理者
山本 亜由美	教育委員
松本 孝志	教育委員
井上 敏雄	教育委員

6人

欠席者 なし

出席教育委員会事務局職員

千々松雅幸	事務局長
宇野 勇気	〃 教育創生監
田中 美香	〃 教育総務課長
中島 幹晃	〃 学校教育課長
野村 一守	〃 生涯学習スポーツ推進課長
神田 高宏	〃 文化財保護課長兼世界ジ・パーク推進課長
倉増 裕	〃 教育総務課総務班長

7人

（午後3時）

1 開会

事務局長 千々松 雅幸

定刻になりましたので、ただ今から、令和7年度第1回美祢市総合教育会議を開催いたします。

開会に当たりまして、篠田市長が御挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

市長 篠田 洋司

あらためまして、皆さんこんにちは。

教育長また教育委員の皆様には、お忙しい中、またゴールデンウィークの最

中に、総合教育会議を招集いたしましたところ、全員御出席頂きまして、心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございます。

委員の皆様方には、平素より市政各般にわたり御理解と御協力を頂いており、特に本市の教育振興に当たっては、多大なお力添えを賜っておりますこと、心から感謝申し上げますところでございます。本当にありがとうございます。

この総合教育会議は、皆さん御承知のとおりだと思います。

いろいろな滋賀県の案件、また、政府の案件等々を踏まえまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が大きく変わりました、その一つが、教育長の教育委員会制度の改革でございます。

従来の教育委員長と教育長を一本化した教育長設置と、それと総合教育会議の設置ということが大きな法改正の趣旨でございます。

この趣旨は、予算権限とか執行権を持っている首長と、教育行政を運営する教育委員会がベクトルをそろえて、教育振興を図っていこうということが主な目的でございます。

こうした中、委員の皆様方には本当に多大なお力添えを賜っております。

この3月に教育委員会会議を経て、第三次の教育振興基本計画が策定されたところでございます。

御案内のとおり、教育振興計画の策定にあたっては、委員の皆様方に、いろいろなお力添えを賜ったところでございます。

市は、それを受けて、教育大綱というのを策定しなければなりません。

従来ベクトルを合わせるということで、教育振興計画に沿った、また、これを教育大綱として、本市は教育の振興を進めているところでございます。

教育大綱の策定に当たっては、委員の皆様方の御意見や、またいろいろな御指摘等々賜ればというふうに思っております。

いずれにしろ、限られた時間であります。

忌憚ない御意見をお願い申し上げ、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 千々松 雅幸

この総合教育会議は、市長、教育長、教育委員によって構成をされております。

今後の議事進行につきましては、会議の主宰者である市長にお願いをいたします。

よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 美祢市教育大綱について

市長 篠田 洋司

それでは、定めによりまして、議長を務めさせていただきます。

これからの進行につきましては、着座にて進めさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に沿いまして、議事を進めさせていただければというふうに思います。

本日の議題は、美祢市教育大綱についてでございます。

まず、美祢市教育大綱についてを議題といたします。

教育大綱がどのようなものか説明させていただければと思いますけれど、先ほど申し上げましたように、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第1条の3に規定されているものでございます。

正確には、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱というものであり、地方公共団体の長がこの大綱を定める必要があるというふうに定められております。

また、第5条第2項においては、地方公共団体の長は大綱を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ総合教育会議において協議することとなっております。

また、同条の3項では大綱を定めたときは、また、変更したときは公表するということにもなっております。

冒頭にも申し上げましたが、本市では、教育大綱は教育振興基本計画とさせていただきます。

計画期間満了とともに、昨年度3月末日をもって、教育大綱も現在では途切れているという状況でございます。

したがいまして、新年度以降の教育大綱の策定に向けて、本日は教育委員の皆様方の御意見をお聞かせ頂きたいというふうに思っております。

協議を行います前に、まずもってこのたび策定されております新たな教育振興計画の概要について、事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課長 田中 美香

それでは、事務局から、このたび策定いたしました教育振興基本計画の概要について説明をさせていただきます。

計画の冊子は、御手元に今日配付させていただいております。

本市においては、第二次教育振興基本計画が令和7年3月末をもって計画期間を満了することから、第三次美祢市教育振興基本計画について、先の3月の定例教育委員会会議で御了承を頂き、策定をしたところです。

今回の第三次計画の基本理念及び基本目標1と2は、第二次計画から引き継いでおりまして、基本理念を「ひとが育つ ひとが輝く 教育の美祢」とし、合わせて四つの基本目標を掲げ、施策を展開しております。

お配りした冊子におきましては、22ページに施策の体系として記載しておりますので、あわせて御覧ください。

基本目標 1、生きる力を高め、将来を担う人づくり、基本目標 2、生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり、基本目標 3、互いに認め支え合えるまちづくり、基本目標 4、自然・文化の保護と活用としております。

また、各項目において掲げております目標指標は、上位計画となる美祢市総合計画後期計画と合わせております。

今回の第三次計画は、令和 7 年度から、今後 5 年間に推進する本市の教育の基本的な考え方であり、基本理念である「ひとが育つひとが輝く教育の美祢」は継続して掲げ、豊かな自然と歴史文化を有するふるさと美祢において、学校家庭・地域の連携のもと、自ら力をつけ、21 世紀を生き抜くことができる人材を育成するとともに、生涯にわたり、お互いが力強く生き生きと輝く人づくりを目指すこととしております。

以上で、簡単ではありますが、第三次美祢市教育振興基本計画の概要の説明を終わります。

市長 篠田 洋司

今、事務局から説明がございました。

委員の皆様方は、教育振興計画を十分御存知だと思いますが、総合的に何か御質問がありましたらお受けしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ただいま事務局から計画概要の説明があったところでございますけれど、全てのことについて協議をしていくことはなかなか難しい部分もあります。

私から何点か、教育委員の皆様方の御意見をお尋ねしていきたいと思っております。

それでは、ちょっと 26 ページをお開き頂ければと思います。

26 ページに、m i n e t o 教育改革プロジェクトについて記載されているところでございます。

令和 3 年度から、こどもたちの好奇心を引き出し、挑戦する力を育むということをコンセプトとした中学生対象の公設塾 m i n e t o を開設運営しております。

この m i n e t o 教育改革プロジェクトについて、皆様から御意見がありましたらお伺いしたいというふうに思っております。

よろしいでしょうか。

松本委員さん、お願いします。

教育委員 松本 孝志

はい、失礼します。

m i n e t o 教育改革プロジェクトは、26 ページに記載があるのですが、そ

の文書の中に3つの力が必要だということが示されております。

世の中の様々なことに興味を持つこと、多様なバックグラウンドを持つ人と、協働すること、未知のことにも失敗を恐れずチャレンジしていくこと。

このことについてはですね、私もとても大切なことだと、大事なことだというふうに思っています。

そして、これらはですね、実は学校においても、いろいろな教育活動を進めていく中で育てていこうとする力ではあるのですが、このm i n e t oの取組は、その力に焦点を当てて、こどもの主体性を大切にしながら、しかも丁寧に見守って取り組んでおられるというところが、大変すばらしいというふうに感じております。

この取組は、ほかの地域にはなかなかないもので、美祢市教育の魅力になるものだというふうに感じておりますので、ぜひ、このm i n e t oの取組というのを美祢市のこどもたち全員に継続的に、体験してほしいなという思いを持っております。

その点よろしく願いできたらと思います。

市長 篠田 洋司

本当に貴重な御意見、ありがとうございます。

今、時代の変革スピードが速くて、我々大人が本当にこれをしていたら、これだけ学んだら、これをやったら大丈夫っていうことが、何ひとつ言えなくなったという時代です。

それと世の中は、確かに行き過ぎた利己主義とか考え方や、強い国が弱い国をいじめたり、そういうことがまかり通っている世界だろうと思いますが、やはり日本人であるっていうことは、本当のありがたさとか良さっていうのはまず感じてもらいたいし、課題を持って、どんな状況下であれ、楽しむ力っていうのは非常に大事だろうというふうに思っております。だからこそ、本当に好奇心であるとか、挑戦する力、くじけない力、そして、ある程度、やっぱり勉強も当然大事でございますけれど、やはりまずはそういう力を育てていきたい。

これが今、市内全域にどう波及効果をもたらしていくかということが、本当に重々承知でございますし、それについてはこの良さが伝わるような取組っていうのは、引き続きまた力を入れてまいりたいというふうに考えております。ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

それでは、次に29ページをお開き頂ければと思います。

今、全国的にも、また山口県でも問題になっております不登校の問題でございます。

2の不登校ゼロに向けた取組について、御意見をお聞かせ願えたらというふうに思っております。

御意見がありましたらお願いしたいと思います。

金子委員さん、よろしくお願いします。

教育長職務代理者 金子 明美

はい、失礼いたします。

本市の昨年度の不登校の状況を見ますと、改善傾向は少しずつ見られておりますが、まだ、複数の学校に不登校の児童生徒さんがおられます。

また、新規の不登校者を出さないということを考えても、この29ページにあります、不登校ゼロに向けた取組は、とても重要だと考えております。

29ページの文章を読みますと、まずこの安心安全で魅力ある学校、そして、児童生徒が大半の時間を過ごす授業が分かりやすいことというのは、とても大切だと考えます。

また、今年度より、教育支援センターが市の中央部の図書館2階に移転して、いろいろな方面から通いやすくなりました。

スタッフも1名増えて、まちづくりセンター等を利用して、秋芳・美東へのアウトリーチ型の支援も可能になり、居場所づくり、個々に応じたきめ細かな自立支援や学習への支援が行われると期待しております。

さらに、専門家を交えての不登校のこどもさんの保護者を対象にした相談会の開催は、保護者にしっかり寄り添うという点で意義のあることだと考えます。

保護者同士のつながりもできたら良いなと思っております。

また、民間団体と連携した不登校の背景の調査研究も、とてもよい取組だと思えます。

今後の教師のこどもへの関わり方や、魅力ある学校づくりの指針になり、不登校の未然防止につながると考えます。

最後ですが、なかなか学校はハードルが高いお子さんも、興味関心を持っていろいろな探求活動に取り組むことができます美祢市の公設塾m i n e t o、あるいはランニングスペースというのは、不登校の受皿になるのではないかなというふうなことも考えます。

以上でございます。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

今年度予算化していますけれど、ちょっとまだ1か月もたっていない状況にあります。取組とか、こういった方向性でいくっていうのを御説明頂ければと思います。

はい、中島課長よろしくお願いします。

学校教育課長 中島 幹晃

先ほど金子委員さんがおっしゃいましたように、教育支援センター「心の広場」の支援員を1名増員させていただいております。

これによりまして、待ちの姿勢ではなくて、お子さんのですね、家の近くまでアウトリーチ型支援ということで、そのようなことも昨年度よりも、より充実させることができ、既に予約も入っております。

それから、保護者対象の相談会、この専門家による相談会というのも、今までにはない視点でございますけれど、こちらのほうも、美東、秋芳、大嶺の各地域で年間3回ずつ、トータルで9回実施させていただくという予定にしておりますし、最後に、調査研究も児童・生徒、保護者、それから教職員にちょっと大規模なアンケート調査を行って、次年度からの施策に反映させてまいりたいというふうに思っておりますのでございます。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

私のほうから、別の視点から御説明というか、逆にお願いもでございます。

市では、とにかく地域共生のまちづくりを進めております。これは、国も同様です。というのは若い人が高齢者を支え合うっていうシステムは、世界中、基本的にはないわけです。

助けてあげられる方が、助けを必要としていらっしゃる方を助けていこうというのは、ヨーロッパ等では当たり前でございます。

その実現のために、本市は重層的支援事業というのに取り組みます。

この支援会議というのは、市民福祉部が窓口になります。この支援会議もぜひ御活用を頂ければと思います。

というのは今頃、いろいろな問題を抱えていらっしゃる方など、複合的な案件が非常に多いわけですので、ぜひ、教育委員会だけで解決しようとせずに、いろいろな力を借りていただきたいと思います。

当然、社会福祉協議会であるとか、地域の団体であるとか、いろいろな機関が連携をしていこう、垣根をなくしていこうという取組でございます。

多分この不登校になった理由というのが、様々なことが考えられますので、ぜひ、いろいろな関係機関とも連携をしていただきたい。この支援会議というのは、守秘義務も課せられております。それが本人の同意なしでも、どんどん、どんどんアウトリーチ型の支援ができるようにということで、かなりハードルが下げられておりますので、ぜひ、御活用を頂ければと思います。

市長部局と教育委員会事務局も、本庁舎が珍しい壁がないつくりですから、ぜひ壁を取っ払って、地域総ぐるみでこどもを育てていくという視点から、教育委員さんの御理解や御協力、お力添えも必要だろうと思います。市としても、不登校対策だけではなくて、いろいろな支援について、全庁挙げて取り組んでまいりたいと思いますので、いろいろな形で御協力を頂ければというふうに考えております。

各委員さん、ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

はい。それでは続きまして、38ページ、図書館機能の整備充実を私が投げかけたいというふうに思っております。

これにつきまして、委員の皆様から御意見がありましたらお願いしたいと思います。

はい、井上委員さん、お願いします。

教育委員 井上 敏雄

はい、36ページにまず基本目標2があるのですけれど、「生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり」これは基本理念の「ひとが育つひとが輝く教育の美祢」においては、当然欠かせない目標の一つだと思っています。

これは教育単体でも、地域づくり単体でも、不十分、不完全だと思っています。当然そこに境があってはならないと思いますし、教育と地域づくりは一体であるべきだと考えています。

ここで言う一体っていうのは、官民一体だけではなくて、行政の部局を越えて一体となって事業を進めることを指しているのだと思っています。

その分かりやすい一つの例が38ページの図書館複合施設の整備だと思います。

この一番上にありますけれど、図書館機能の整備充実の項目には、大きく四つ、一つ目が市内図書館の利用環境の充実を図る。二つ目が市民の学習機会と多様な文化に触れる図書館機能の充実を図る。三つ目が、美東地域、秋芳地域の新たな図書館の充実、活用を図る。そして、四つ目に、図書館を中心にした、生涯学習の拠点である美祢図書館複合施設の整備を進めるとあるのですけれど、このうち三つ目の美東地域、秋芳地域の新たな図書館というのは既に利用が開始されていまして、開館してから本の貸出し人数が倍近くなっていると聞きしました。

計画段階から市民を交えたワークショップやパブリックコメントを実施した結果であり、施設に対する市民の期待度の表れだと感じています。

また、二つ目、四つ目にあるように、生涯学習へと続く図書館機能のみならず、まちづくりの拠点機能としての活用が期待されています。

読書環境の整備充実は、生涯学習に通ずる市民の学習機会を高めるだけではなくて、一番本に触れてほしい保・幼・小・中・高のこどもたちへのメリットが非常に大きいのではないかなと考えています。

そんなこどもたちもそうですけれども、美祢図書館の複合施設の期待は大きくて、私を含め、多くの市民が新しい整備計画が進むのを楽しみにしております。

美祢市立図書館複合化計画、これは、令和6年10月に策定され、子育て学びの活動、健康づくり、地域情報発信、この3つの機能に重点が置かれています。

今は計画の概要が決まってその詳細について詰めていく段階にあると思います。

ます。ですけれど、根幹となっているのがまちづくりの拠点となるべく思想があるのだと思っています。

あまりよい言い方ではありませんけれど、とにかく行政は無駄な箱物ばかりをつくってとよく言われるのですが、完成したら終わりではなくて、完成してそこからが始まりだということをぜひ市民にも理解してほしいなと思っています。

これは、運営についても行政に任せきりではなくて、市民が自ら運営に参加したくなる施設にすることが大切ではないかと、あわせて司書の研修等の充実も今後必要になろうかと思っています。

共につくる図書館複合施設、これを市民に実感してもらうためには、市民へのPRが必須ですし、完成した後だけではなくて、実施設計や工事中においても市民に興味を持ってもらえるようなアピールが必要かと感じます。

建物が完成するまでの情報発信とか、ワークショップなど計画は当然あるかと思いますが、旧美祢エリアだけではなくて、秋芳、美東エリアからも積極的な参加が必要だと感じています。

こうした施設は、第一にまず興味を持ってもらうこと。次に利用してもらうこと。そして、輪を広げることが成功の鍵ではないのかなと。

幅広い年代の参加が理想ですし、中・高生もぜひこういったワークショップ等に参加していただきたい。そして、意見を聞きたいなと思っています。

そのためには、教育委員会だけではなくて、部局の垣根を越えて取り組んで頂きたいなと思っています。

図書館の意義っていうのは、本の貸し出しとか閲覧だけが目的では当然ありませんし、いろいろな世代の人が集まって、まちづくりの拠点であることを期待します。そして、こどもたちが、美祢市にはこんな図書館複合施設があるんだよって、市民が胸を張れる施設になることを願っています。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

図書館の建設にあたっては、一度令和4年でしたか、市民会館の大ホールで最初やらせていただいて、いろいろな市民の皆様から期待の声を多く頂いたところでございます。

委員さんが言われましたように、中身が大事なのだということをすごく言われて、司書が1人でしたけれど、今、増員をしているところでございます。

図書館の運営にあたって、協力したいっていう方の声は多く頂いております。

やはり、図書っていうのは非常に大事だというふうに思っております。

特に、教育長にはすぐお願いしていたのが、とにかく、絵本教育をしっかりしていただけないかというお話もさせていただいたところでございます。

民俗学者また絵本作家の柳田邦男さんは、生涯3回の時期に絵本を読んでほ

しい、触れてほしいとされています。

また、こどもが最初にプレゼンされるのは絵本だということで、絵本教育の大事さを非常に言われているわけでございます。

したがって、この絵本文化とか図書の文化が、本が好きなのところではあったと思うのです昔は。

御案内のとおり、公民館単位で読書会が開催されていたのが、昭和の終わりの頃から公民館の全国的な予算削減とあわせて、図書館についても、国の予算措置削減に伴いまして、どんどん、どんどん規模が縮小したところです。

けれど、今ですね、図書館はどんどん大事なのだということで、金沢にしても、どこにしても図書館機能というものが、すごく充実しています。

私は、図書館に力を入れたかったのは、本当に委員さんが言われるように、まちづくりと中高生がロビーで勉強していたというこの環境を、どうにかしたいというのもありました。

特に、美東センターに行けば、あそこの暗いロビーで、車を待ってらっしゃる方、こどもさんがロビーで勉強しているといった環境をどうにかしたいということで、とにかく拠点を整備して、それとあわせて、図書機能も充実させていこうということで、今、計画しています。

ワークショップには、高校生の皆さんにも参加していただいております。

この建設の前に、この機運をもっともっと盛り上げて、本の重要性とか、ゲームじゃなくて、みんな来て、図書に触れて、夢が広がっていくことにつながっていくと思いますので、ぜひ、こどもさんだけでなく、生涯にわたって図書に親しむ、また楽しむ。そして、この同じ本を読んで、いろいろな会話ができる。それに、地域の歴史にも触れることができる。そういう図書館を充実させてまいりたいというふうに思っております。

今、開館時間もまちづくりと一緒に合わせて変更して、担当の職員も頑張ってくれています。開館時間とかの在り方についても、市民にアナウンスしながら進めてまいりたいと思います。

建設に着手する前に、図書館を中心とした何か図書館祭りではないけれど、とにかく図書館発のイベントをしてほしいということを私からは出しています。限られた職員でありますけれど、十分市民の皆さんに、より興味を持っていただくよう、関心を持っていただき、より協力してもらえる体制をしっかりとつくってまいりたいと思います。

貴重な御意見を頂きました。委員さんの今の御意見については、まちづくりの中でも一緒にあわせて検討を進めさせていただきたいと思っております。

これにつきましては、また、途中途中で御意見がありましたら、途中の段階でも結構でございますので、事務局を通じてでも結構でございますし、直接、私におっしゃってくださいまして結構でございますので、引き続き、御指導賜りますようよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

それでは、会議を進めたいというふうに思っております。

続きまして47ページのジオパーク活動の推進についてを議題とさせていただきたいというふうに思っております。

まず委員の皆様から、何か御意見がありましたらお願いしたいと思います。
山本委員さん、お願いします。

教育委員 山本 亜由美

ジオ学習についてなんですけれど、美祢市の素晴らしさを学べるジオ学習は、こどもたちにふるさとを大切に思う心を培うだけでなく、世界の人たちとコミュニケーションをとることのできる学習として、とても大切だと思っています。

コロナ禍以降オンラインでの学習が当たり前ようになってきました。

ジオ学習の中で、カルストを通じて、海外のジオパークとオンラインでつながりを持つことができ、いろいろな世界を見たり、様々な違いや文化を学んだりすることができます。

学習の中では、英語でのコミュニケーションも必要となり、自然と英語のハードルが下がっていくのではないかと期待が持てます。

美祢市でも、海外の人たちの姿が多く見られるようになりました。

英語の重要性を感じる場面に出くわすことも多くなり、自分自身も、コミュニケーションをとるのに困ったことが数えきれないほどあります。

こどもの頃から学習の中で、海外の方たちとコミュニケーションをとることができれば、将来こどもたちの強みになります。

今後、ジオが世界に認められるとするならば、こどもたちはジオ学習を通して、ふるさと美祢に誇りをもっと持つことができ、自分たちは世界に自慢できるすばらしい町に住んでいると、これから先出会う人たちに美祢の話をしてくれることと思います。

また、大人になっても、ここに住み続け、ここから情報発信をしてくれるこどもたちが増えるかもしれません。

未来あるこどもたちにとって、ジオ学習は唯一無二であると思っています。
以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

神田課長、なにかありますか。

いいですか。はい。

国内推薦が決定したわけでございますけれど、世界の方から見られると、今48地域、国内のジオパークの認定地域があるわけでございます。しかし、火山活動とか地震をテーマとしないジオパークっていうのは本当にM i n e 秋吉台ジオパークでございます。

世界の方から見れば、こんなところが日本にあったのかというふうな評価も

頂いたところでございます。

御案内のとおり、世界中の震度 6 以上の地震の 18.5% がこの日本にありますし、100 以上の火山もあるわけでございますので、それは世界で 1 割を占めているわけでございます。

このジオパークの活動の素晴らしさは、ふるさと教育だということでございます。

今からは、確かに利便性を日本全国求めていますけれど、やはりその地域ならではの、やっぱり大地の成り立ちであるとか歴史であるとか、そういうことは非常に大事だというふうに思っております。

私は、企業誘致とかがカンフル剤かもしれませんが、本当に体質改善はジオパーク活動のように、やっぱり教育的な視点というのは非常に大事だろうと思います。

この中にもブーカの時代とか、こう書いてありますけれど、この不確実な時代で、唯一確実なことを提供できるのは教育だというふうに思っておりますので、ふるさと教育という観点からもジオパーク活動は必要だというふうに思っております。

やっぱり世界の方と、どうコミュニケーションをとるかっていうのは非常に大事だろうと思います。

ベトナムで、英語で一応発表するのですが、アジアでコミュニケーションをとろうと思ったら、改めて思うのは、そんなに難しい単語は要らないなというふうに思っております。それと英語力をどう生かしていくかっていうのはぜひ取り組みたいと思いますし、今の御意見、本当に参考にさせていただきたいと思います。

今、J I C A のシステムとかいろいろジオパークの推進委員になっていただいていますから、これを市民向けに何か 1 講座、有料でもいいから英会話のアジアでというか簡単に通用するような英会話教室と、やっぱりその中で、地元のことをいかにしゃべれるかっていうのは非常に大事だろうと思います。最初の丸暗記でもだんだん解ってくるのではなかろうかと思いますが、日頃から日本は使わないから折角学んだことが生かされていないかもしれませんので、山本委員さんの御意見も参考にさせていただいて、ジオパーク活動を推進してまいりたいというふうに思っております。

ジオパーク活動は、コミュニケーション能力を高めるためにも、非常に大事ですし、活用できるツールだと思いますので、ありがとうございます。

いろいろと御意見をお聞かせ頂きまして本当にありがとうございます。

ここまでで、総合的に教育長、何かございましたらどうぞ。

教育長 南 順子

最初に事務局から説明がありましたように、今回第三次の美祢市教育振興基本計画では、第二次の「ひとが育つ ひとが輝く 教育の美祢」を基本理念と

しながら、新たに、よりよい生き方を実現するウェルビーイングの視点を取り入れています。

篠田市長も、こどもたちには幸せになってほしいという強い願いをおもちで、「市の宝となる人の育成」を市の総合計画後期計画の5つの基本目標の一つに掲げ、教育行政の推進に御理解と御支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

教育は人が幸せに生きる為にあり、こどもたちには、誰もが人と比べることのできないかけ替えのない良さをもっていることを、様々な教育活動や体験を通して実感させ、自己肯定感や自己有用感を高めると共に、多様な人とかかわる中で、お互いに認め合い、助け合いながら、よりよく生きていく力を育んでいきたいと思います。そして、様々な場面で、幸せに、一生懸命 生きている多くの大人と触れ合うことにより、こども自身が幸せに生きる力を身に付けられるよう様々な取り組みを進めているところです。

そのためにも、美祢市の良さや強みである豊かな自然や歴史、文化遺産、その素晴らしい自然や歴史が育んだ市民の皆様の温かくやさしい人間性や学校教育への惜しみない協力等、地域の皆さんの熱心な教育力を最大限に生かし、多様な学びの機会を通じて、こどもも大人も世代を超えて共に学び、成長し続け、しあわせを実感できる学校教育、家庭教育、社会教育を目指していきたいと考えています。

そうすることで、美祢市ならではの魅力的な生涯学習の推進を通して、生きる力を高め、将来を担う人づくりや、誰一人取り残さない豊かなつながりを育む地域づくりにつながると考えています。

具体的には、地域における学びの場を広げ、多様な魅力ある人との出会いや体験の場を設定することで、こどもたちが笑顔で生き生きと学び、学校に行くのが楽しいと感じ、教師にとっても働きがいを感じるウェルビーイングな学校づくりをまずは目指します。

学校が、こどもたちにとって楽しく、安心・安全な魅力ある居場所になることで、学校が抱えている様々な課題、例えばいじめ・不登校の解決にもつながっていききたいと思います。

そのためにも、こどもたちにとって保護者の次に最も身近な存在である教師の魅力化と、こどもを主語にした地域連携カリキュラムの実践、検証、改善と、ふるさと美祢を舞台にしたジオ学習のさらなる工夫が重要です。

また、秋芳・美東のまちづくりセンターの誕生は、市民が当事者意識をもって、いろいろな人と連携協力をしながら、活力のあるまちづくりを推進しようとする機運を高める絶好の機会になっています。

いつでも、どこでも、誰でも、何からでも、楽しく学び続ける生涯学習センターとしての機能はもちろんのこと、いろいろな人が集うことによって、世代を超えた新たなつながりが生まれ、多様な能力や個性が発揮されることで、これまで育んできた地域文化や伝統を尊びながらも、新たな魅力ある市民主体の

取り組みが誕生しています。

具体的には、美東まちづくりセンターでは「美東サークル」の誕生、秋芳まちづくりセンターでは、地域と学校の架け橋となる「秋芳ゆめ学習室」が誕生しています。

教育委員会といたしましては、そのような取り組みがさらに持続可能な魅力あるものになるよう、また、一人でも多くの方が気軽に参加、協力できる広報活動の充実に努め、学校や様々な関係機関と連携・協力しながら学社融合の伴走支援につとめたいと考えているところでございます。

市長 篠田 洋司

今、市ではキャリアガイダンスで、成進高校、青嶺高校で、市内企業の説明とか職場のブースを設けています。

市役所もそうなのですが、教員志望が最近、凄く減っているっていうのは、やっぱり自分たち、家庭で先生が大変だからならせない、それは辞めた方がいいのではないかっていう、意見を聞いたりしているからですね。

だから、将来何になりたいかと思った時、やっぱり先生がいいっていうのは非常に大切ですが、先生の業務等が増えすぎたっていうのがありますよね。業務改善をどうかしていきたいなというふうに考えていますが、仕事のしすぎかもしれないですね。

また、やっぱり先生がにこにこするっていうことは非常に大事だろうと思います。そのことによって、学校に行きたくなるっていうこともあるでしょうし、地元で育った子が先生になるっていうのは、あとは地元に戻って来ますから、地元にとっても好循環です。地元で育った子が、数多く教員を目指してほしいですね。公務員もそうですけれど、市役所も。

教育長 南 順子

教員が魅力的で生き生きと仕事をしている姿、それから、笑顔で、本当にこどもの心に寄り添った言葉掛けをし、自分の職務に専念しているっていうのか、魅力がやっぱり授業ということになるのですが、楽しい魅力ある授業をしている。その姿を見ることによって、こどもたちが憧れを持って自分もなりたいと思う。市の職員もそうだと。

生き生きと仕事をしている大人の幸せな姿を見せることがこどもが幸せに生きる力をつけていくということをし、しっかりと教師自身が認識して、今、市長さんもおっしゃいましたように、やっぱり学校に来ると楽しいというのは、まず、先生のその笑顔と迎える雰囲気が非常に大事になってくるので、それが目に見えるところだけではなく、言葉かけとかも、こどもの心を育てているのだということをしっかりと教員も意識づけることが必要じゃないかなと思います。

市長 篠田 洋司

これ、先生だけの問題ではなくて、やはり、家庭が三世代同居とかだったら、それ以上文句言うなって、おじいちゃんおばあちゃんが止めていたのですよね。

それがなくなってきた。だから、一つはやっぱりクレーム対応をどうしてあげるかっていうのは非常に大切では。我々の職員もそうなのですけど、カスタマーハラスメントっていうかですね。そういうハラスメント対策、また、家庭教育をどうやっていくかっていうことも、なかなか難しいところですね。

教育長 南 順子

市教委のほうで、学校と家庭との間に、いろいろトラブル等があったときには、市教委が中に入ったり、スクールカウンセラーなど、先ほどの重層的支援体制の話につながってきますけれど、いろいろな関係機関と連携を持ちながら対応していくということにしています。

もちろんその基本は、こどもや子どもの家庭に寄り添うということですけど、それをすることによって、少しでも教師の負担が改善できるように、努めていきたいというふうに思っています。

市長 篠田 洋司

これ市の職員にも通じることですけど、例えばもう警察のOBを常駐してもらうとかですね。

そういったことも含めて、やっぱりクレーム対応をどうするかっていうのは、こちらも一生懸命考えてまいりたいと思いますので、また、御提案がありましたら、お伺いしたいです。

教育長 南 順子

どうぞよろしくお願いいたします。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

これまでのところで、委員の皆様から御質問や御意見がありましたらお願いしたいと思います。

ありがとうございます。

従来から、美祢市は教育振興基本計画をもって、美祢市の教育大綱とさせていただきます。

したがいまして、これをもって、本日、美祢市の教育大綱とさせていただきますでよろしゅうございますでしょうか。

【全員同意】

市長 篠田 洋司

はい、ありがとうございます。

よって第三次美祢市教育振興基本計画をもって、美祢市の教育大綱とさせていただきます。

ありがとうございました。

ここまでの議事でございます。

よろしいですか。

この議題について、何かございませんでしょうか。

(3) その他

市長 篠田 洋司

それでは2番目、その他に移らせていただきます。

せっかくの機会でございますので、御意見や御質問、また何かありましたらお願いしたいと思います。

逆にちょっとお尋ねしていいですか。

市でやっぱり本当に教育っていうのは大事で、どういう子に育てていくか、大人もそうなのですけど、幼稚園とか保育園とか本当に頑張ってくださいているのですよね。

行きにくいかもしれませんが、教育委員さんは、幼稚園とか保育園とかを訪問されているのですか。

教育長 南 順子

そうですね、今のところ教育委員会としてはしておりませんが、ぜひ、幼保小の連携は進めたいと考えています。

市長 篠田 洋司

もし可能でしたら、市民福祉部と調整させていただいて、園長先生とかも美祢市の教育委員の皆さんが来られたら、喜ばれると思うのですが。

一本筋の通った絵本教育でもそうですけれど、こういうのを取り組んでほしい。多分、園長先生のそれぞれの思いがおありだろうと思いますので、そういう希望があったら行ってもいいのではと考えますが。

教育長 南 順子

ぜひ、そうさせていただきます。ありがとうございます。

市長 篠田 洋司

市民福祉部長に回るように言っていますが。

事務局長 千々松 雅幸

調整いたします。

市長 篠田 洋司

行かれて、状況を十分に見られて、意見交換をさせていただくってということも非常に大事だろうと思いますし、また、あわせて高等学校もそうですけれど、関係性が密であれば、そのまま安心して、地元の学校にということにもなると思います。進学時に関係性が途切れるときに、やっぱり市にとってはピンチです。

学びが継続するような取組ができたらいいなというふうに思っておりますので、あとは、私のほうがいかに予算を確保するか。

委員の皆様から、何かございましたらお願いします。

総合教育会議は、全国平均で大体年間1.3回となっていますが、美祢市のほうが少ないですね。

事務局長 千々松 雅幸

調整させていただきます。

市長 篠田 洋司

状況によっては何をやっていいか分からないし、事務局も大変でしょうけれど、もし何かありましたら、総合教育会議という形で、私も出席させていただければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

教育長 南 順子

ありがとうございます。

市長 篠田 洋司

学校に実際に行かれてどういう感想をお持ちか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

昔の現場と今の現場がどう違うかとか、順番によろしいですか。

教育長職務代理者 金子 明美

実際に学校経営について話を聞いたりとか、授業参観を実際にするということで、学校の様子をしっかりと把握というか、見ることができますので、やはり学校訪問というのはとても大切だなと思います。

訪問の後に、限られた時間ですけれども、意見交換の場面があるのですよね。

そこでは、やはり先生とか、こどもたちのよい点をしっかりと価値づけたりとかですね、あるいは疑問点を聞いたりとか、あるいは改善点を話したりとか、そういう時間もととても貴重だと思っています。

やはり、自分たちの時代とかなり取組が違う場面もあるので、その辺は、これはどういう意図なののでしょうかというふうに聞いたりとかするようなこともあります。

実際にも、それから、やはりいろいろな学校もあるということで、ほかの学校の良い取組をお伝えすることもできるんですよね。

だから、そういう点でも、学校訪問っていうのはとても意義があるなと思っています。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

松本委員さん。

教育委員 松本 孝志

率直に、いろいろな学校を訪問してですね、各学校とも本当に特色のある教育を進められるなということを感じています。

それから、地域との連携というのがどの学校も大変よく進んでいて、いろいろな教育活動の中に、地域の人が入ってこられているなという印象を持ちました。

それから、こどもたちの様子を見ていて学校で本当によく指導されているんだなと思います。挨拶がととてもよくできる、授業にも、とても真面目に取り組んでいるなという印象があります。

特に、小学校では、最近ＩＣＴを使った授業とかも積極的に取り組んでおられて、こどもたちも道具のようにそれをよく活用しているなという印象を持っています。

もう一つ、もう少し見たいなと思うのが、これはこどもの数も減っているというのもあるのですが、こどもたち同士が意見を言い合ったりとか、お互いの考えを深めたりとか、そういうところの機会がもっと増えていくと、とてもこどもたちの知識も深くなるし、コミュニケーション能力も高まっていくだろうなあというふうに思うのですが、全部見ているわけじゃないですけども、その辺りがもう少し充実してくるといいかなという感想は持っています。

以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。
井上委員さん。

教育委員 井上 敏雄

学校訪問に行ってもよく思うのは、先生はどのこどもたちに対しても同じように均一に教えていかなきゃいけない。差別なく教えてなきゃいけないというのは当然あるのですけれども、こどもたちは、例えば理解度とか、やる気とか、やっぱり一人一人全部違うのですよね。

それに対して、今度先生がフォローすると、クラスの人数分違う個別のフォローが必要となっているのですよ。先生はすごい。何て言うのですかね、時間的なものが足りない気がするんですよ。

ただ、全般的な先生の残業を減らして行って、どんどん先生の立場は、かなり厳しいものになっているのではないかなと思います。

そんな中で、教育委員会が方針っていうか道筋を指してですね、伴走して後押しして、先生方をサポートできる、そういう立場に教育委員会があるのではないかなと思います。

先生は、年配の方、ベテランの方とか、新人の方とかで随分雰囲気の違いますし、学校によってもちょっと違うのですけれども、学校、こどもたちにやっぱり一番影響しているのが、家庭もそうですけれども、やはり先生。担任を含めて、先生の影響がすごく大きいので、私たちは年に一回、それも1コマぐらいしか見ることができないのですけれども、少しでも何かサポートできる力になればいいかなと思っています。

はい。以上です。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。
山本委員さん、お願いします。

教育委員 山本 亜由美

学校訪問でというよりも、保護者の立場から、私、学校訪問に行った時に見てしまうのですけれども、コロナ前とコロナ後だったら、何か家でもそうなのですけど、ノートの減り具合がまず違うのと、ノートのとり方が全然分かってないかなっていうふうに思っています。

もう何かICT機器を使ってやればいいっていう感じで、書くことをまずしない子が増えたなっていうふうに思っています。

それと、一番気になっているのが、先生とこどもの関係性と、先生と保護者の関係性が何か昔とちょっと違ってきているのかなっていうふうに思って、気になっています。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

教育長はよろしいですか。

教育長 南 順子

教育委員の皆様方がそれぞれ学校に訪問していただいて、今おっしゃったとおりのことを行っていただけということは、非常に学校にとって貴重なありがたいことだと思います。本当に感謝申し上げます。

私もいろいろ授業を見させていただいておりますが、教育委員の皆さんとは別に、突撃学校訪問というのをして、普段の姿を見るようにしています。

配慮の必要なお子さん、そのお子さんに、どういうふうに先生が接しているのか、また、支援体制がどうなっているか、そういうふうなところと、やはり先ほどお話ししましたように、学校の先生方のそれぞれの良さ、また、こどもの伸びたところ、良さをしっかり褒めて、先生方にもこどもにも自信を持たせる、やっぱりそういうことをする立場で訪問させていただいているのですけれども、先ほどちょっとお話があったように、気になるのは、五感を通した教育ってというのが、もっと特に低学年、中学年では必要じゃないかということです。

教科書を声に出してしっかり読むとか、私は、実は鉛筆の持ち方をできるだけチェックしているのですが、今までここ3年間教育長を務めさせていただいて、秋芳桂花小で1名、今は卒業しましたがけれど、その子が正しい鉛筆の持ち方をしていました。

そういう必要な技能が身に付くのは、命令では難しいのですが、いろいろな体験を通して、鉛筆を正しく持つことが箸の持ち方にもつながり、日本の文化にもつながっているということを知ることが大切で、外国の方とコミュニケーションをとった時、例えば、箸の持ち方を正しく教えることにもつながってくると思います。

箸は2本のうち、1本抜けば鉛筆の持ち方につながるので、今まで大事にしてきた学校の文化というのも、少し位置づけるといいなというのは率直なところ感じております。

鉛筆のこういう持ち方をする子がいるんですね。もう慣れてしまうと、今さら変えることができない。

だから、実はこれ、幼稚園、保育園の時初めて鉛筆を持つときが大切。

幼保小の連携の話がありましたけれども、それをやっぱりしっかりつなげていく。こどもが嫌になるような仕方はしないで、楽しく、なかなか楽しくは難しいですが、やっぱり興味がもてるよう、上手だねって褒めて認めていく。

例えば、小豆をつまむとか、正しく箸が持てないとつまめないというふうな体験をする。新たなICT教育も大事ですが、今まで学校教育で培ったものも、大事にしていきたいというふうに、考えているところです。

市長 篠田 洋司

ありがとうございます。

そうですね。

おっしゃるとおり、ノートを取り方も、一時期デジタルが言われる前は東大生がつくるノートの作り方とかいうのがベストセラーになったり、やっぱりノートのとり方っていうのは非常に大事だろうと思います。

五感を使って覚えるっていうのが。だから、基本的に、私たちはこれで情報上デジタルっていいようなけれど、やっぱり情報が自分の興味あるものしか入ってこないのですね。それが分かったのが、やたら草刈り機の広告が入るから。それは調べるからですよって言われて、確かにそうですね。絶対操作されているのですね。

ですから、新聞とかの良さは画像で捉えることができるっていう、もうめくだけでも、だから、いまだにちょっと新聞は、朝30分全部見るのですけれど、やっぱり画像で捉えるっていうことも非常に大事だろうし、やっぱり書くっていうのは、塩梅ですね、全て。

やはり良いものは絶対残っていくと思うのですね。

社会の変革っていうのは、螺旋階段的発展の法則と言って、上から見たらぐるぐる回っているけれど、横から見たら確実に進化しているっていうのですから、やっぱり良いものは残って行って、いいもので昔やっていた分は絶対残っていくのですけれど、形を変えるっていうことですね。

これぜひ、いいものは残していきたいなということと、良い関係性をどう構築するかということですね。

ありがとうございます。いろいろ御意見を頂きました。本当に感謝申し上げます。

また、何かありましたら、遠慮なくいろいろな御意見をお聞かせ願えたらというふうに思っております。

美祢市の良さは、関係性が近いことだろうと思います。

特に、秋芳地域とか美東地域も、びっくりする、これだけ近いのだっていうほどよい関係性を保つということは非常に大事だろうと思います。

その関係性が維持できないと、人口、とにかく流動化はどんどん、どんどん進んでいますし、日本全国流動化は止めようがないのですけれど、いいところに、いずれは、戻ってくるということも十分考えられますので、戻ってこれる関係性を構築するということは、今から関係性人口とか言われていますけれど、本当に良い関係性を保つことが、真の意味の関係性、関係人口の拡大ということだろうと思います。

それがあれば、また支援していただける方も増えてくるわけですので、あと職員にも言っているのですけれど、1人で頑張り過ぎない事、先生方も1人で頑張り過ぎないこと。

いかにいろいろな方の力を借りるかっていうことは、今から生きていく上で

非常に大事だろうと思います。

ですから、人としての教育っていうのはいかに大事かというふうに思います。

世界の方が来られて、心ある世界の方ですね、この日本人の素晴らしさを分かっています。

他者を思いやる気持ちであるとか優しさであるとか、そういうことが日本人の今から大きなアドバンテージになるというふうに思います。

本当に倫理観を持ったこどもたちっていうか、建国の歴史からなるのですけれど、神武天皇が養正という「正しさを養う」ということを詔として言っていますとおり、本当に正しい倫理感というのは、日本人ならではの良さだと思います。本当に良い関係性と、人としてどうかっていうことは、本当に良い人、いちいち文句言わない人とかじゃなくて、本当の正しさ、倫理観を持ったこどもたちを育ててまいりたいというふうに思っております。

閉会

市長 篠田 洋司

今後とも、いろいろな面で御指導賜りますようよろしくお願い申し上げます、この会を閉じたいと思います。

本当にありがとうございました。

長時間にわたり、本当にありがとうございました。

（午後4時25分終了）